

社会貢献



》》 次世代への教育

学生向け現場見学会を開催 ～九州支店

九州支店では、土木を専攻する学生を対象とした現場見学会を開催しました。当見学会は、建設産業や現場の仕事についてご理解いただくことを目的としており、今回は大分の工業高校の学生40名と教員1名が参加しました。見学会では、若手職員からICTを活用した現場概要等の説明があったのち、防波堤の基礎石を平坦にする均し作業の様子を船上から見学しました。参加した学生からは、「ICTの技術やスケールの大きさに感動した」「卒業後の進路の参考になった」等の感想を頂き、建設業が果たす社会的役割を伝えることができました。この経験が今後の学業に活かされることを期待するとともに、次世代の担い手確保に努めてまいります。



若手職員による説明の様子

》》 地域との共生

鳴尾浜産業団地防災訓練の取り組み ～鳴尾研究所

鳴尾研究所がある鳴尾浜地区には多くの企業・工場が立地し、鳴尾浜連絡会を構成しています。鳴尾浜連絡会では年に一度、想定される南海トラフ巨大地震発生から津波避難までの一連の行動を確認するための防災訓練を実施しています。2019年度は鳴尾研究所員も各自の作業場所でのシェイクアウト（身の安全確保）を行ったのち、直ちに近隣の津波避難ビル2ヶ所に分散して移動しました。全所員の避難時間は約10～15分程度であり、津波襲来前に避難できることを確認しました。同日は併せて鳴尾消防署指導のもと、救急救命訓練を実施し、研究所員もAEDの使い方等の経験を積みました。今後もこの経験を活かし、災害時でも冷静な判断と臨機応変な対応を心がけていきます。



AEDを使った救急救命訓練

》》 環境への貢献

アマモ場再生活動への共催参加 ～関東支店

関東支店は2014年より毎年、金沢八景－東京湾アマモ場再生会議が主催する「アマモ場※再生活動」に共催参加しています。この活動は、秋に地域の方々とともに種まきを行い、翌年の夏前にかけて苗を生育させて海に移植するものです。水質汚濁等による環境の悪化で一時期アマモ場は激減していましたが、水産上の重要性や環境保全の観点から全国各地でアマモ場の再生活動が展開されており、当社も積極的に取り組んでいます。たゆまず努力していくことで、海域の保全と再生に貢献できると期待しています。

※アマモ場：水質浄化の役割を担うアマモが繁殖している場所のこと。多くの海の生き物たちが産卵・成育することから「海のゆりかご」と呼ばれている。



アマモの苗床づくりと種まきに挑戦

アフリカ・ケニアでの清掃活動 ～国際支店

国際支店は、海をきれいにする保全活動の一環として、ケニア共和国モンバサ郡のインド洋に面したリゾートビーチで清掃活動を行いました。ケニア政府関係者とモンバサ港開発事業に携わる方々を含め総勢160名（ケニア人、フィリピン人、インド人、日本人）が協力し、浜辺のごみを回収しました。ごみの多くは、世界的な環境問題として取り上げられているプラスチック類でした。同ビーチは地元の方たちの憩いの場であり、たくさんの観光客が訪れる場所です。微力ではありますが、これからも清掃活動を通じて、同国の憩いの場の保全・経済発展に寄与できるよう前向きに取り組んでいきます。



ケニア・モンバサ海岸清掃活動